



# 東白川小だより

令和4年6月30日(木) №4

校長 桂川 辰也

## 「転ぶなら今！」



学校は、安全・安心な場所ではなくてはなりません。しかし、子どもが苦勞したり、悩んだりする機会を全て奪ってしまうことのないようにと考えています。

現代社会は「先行き不透明な予測困難な時代」と言われています。だからこそ、子どもたちには、「失敗」や「躓き」に対する抵抗力を鍛えておくことが必要だと考えます。ところが、私たち学校は、つい「転ばぬ先の杖」を差し出し過ぎてしまう傾向にあります。「何かあったらどうしよう？」と、何か起きることに慎重になりすぎてしまうのです。子どもたちの力では回避できない「命」に直接関わる危険は排除しなければなりません。しかし、多少の凸凹であれば、子どもたちが躓いて転んだり、自分で立ち上がったたりする機会として、あえて残しておくことも大切ではないでしょうか？先週、村の「子ども応援委員会」という会議に参加しましたが、同様の考えを述べられる方がみえたので、背筋が伸びると同時に嬉しく思いました。

「子どもを鍛える場を学校が奪ってないか？」

「子どもを鍛えることから逃げていないか？」

今までの当たり前をもう一度見直し、保護者や地域の方の力をお借りして学校の教育目標「せいっぱい きたえ のびよう 東っ子」の実現を目指したいと思っています。

先月号に、「坂道登下校」の在り方を見直す必要を感じましたと書きましたが、具体的に次の3つが4月とは変更しています。

- ① 雨でも傘をさして坂道登下校を実施する。(どしゃ降りは別)
- ② 坂道下校は原則週4回実施する。(2便の日)
- ③ 階段を利用する。

<今年度より登下校時に正門を利用しています>

※熱中症が心配される季節となりました。原則、坂道登下校時のマスクは外し、会話を控えるように指導をしています。

